寄稿論文

オープンフィールドネットワーク“CC-Link”の普及とパートナー製品

原田昭男*

要　旨

FA（Factory Automation）システムの最下層を支えるフィールドネットワークCC-Linkは，2000年11月に設立されたその普及促進組織であるCC-Link協会（CLPA）とともに，21世紀の幕明けから日本“発&初”のオープンネットワークの道を歩んできた。

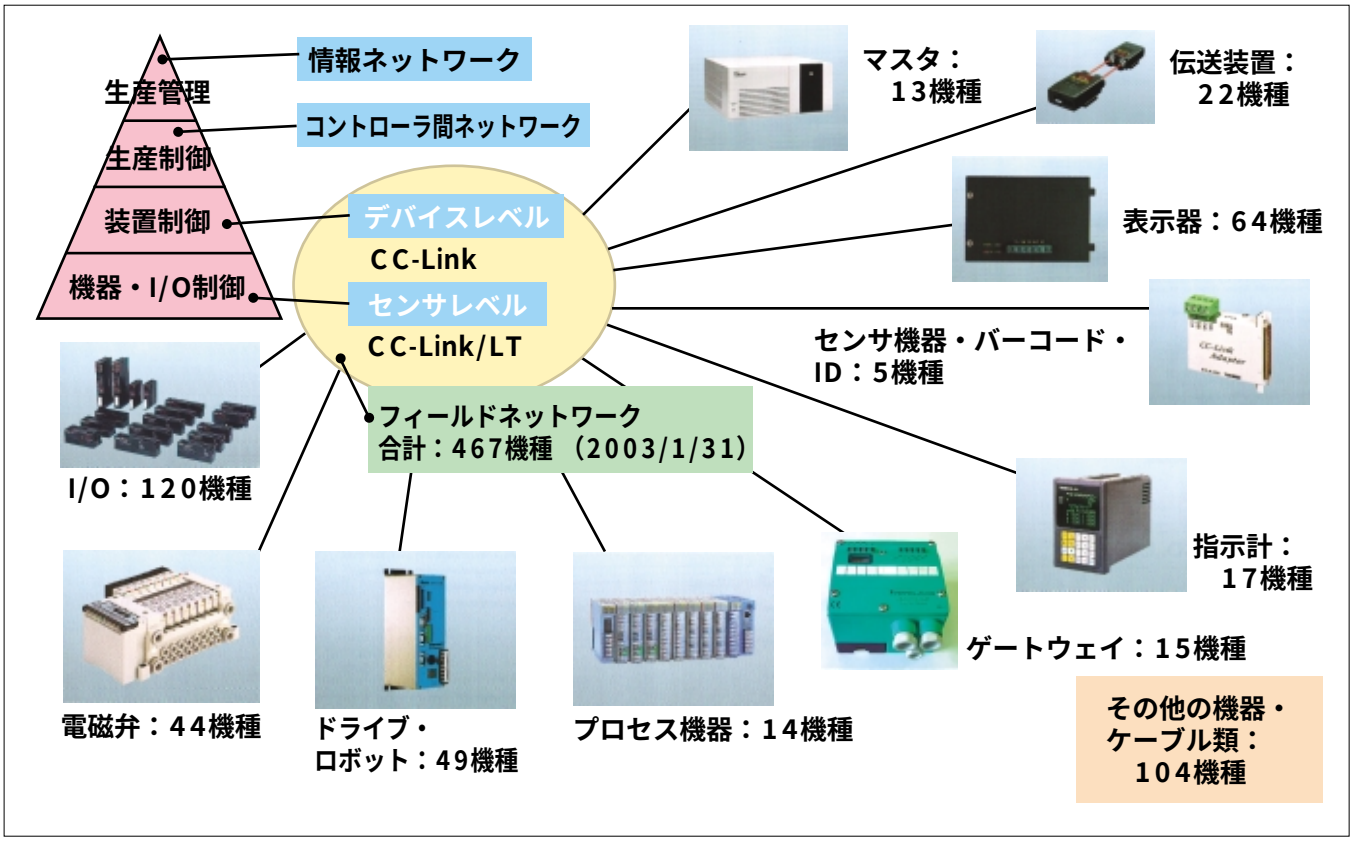
CLPAでは，大学や公的機関との産官学協同体制を構築しつつ，FA関連７社からなる幹事会，マーケティング・テクニカル専門部会，コンフォーマンステスト機関，海外６拠点等を立ち上げ，国内外の主要展示会への出展やセミナ開催，広報活動，CC-Link仕様のパワーアップ等，精力的な活動を展開し成果を上げてきた。

その結果，CLPA発足から約２年が経過した時点でパートナー会員は当初の３倍を超える420社を突破し，接続製品数も467機種まで拡大する伸展を果たすことができた。

パートナー会員企業からのCC－Link接続製品の出荷数も17万台（1999年度）→33万台（2000年度）→44万台（2001年度）と年々増大しており，累計では2001年度に100万の大台を突破し，106万台を記録した。

CLPAの分析では，製造業での省配線やリモートメンテナンスをねらいとしたフィールドネットワークの導入は75％まで急拡大しており，採用機種も複数回答でCC-Linkの41％をトップにDeviceNetが32％，PROFIBUS-DPが11％と，上位をオープンネットワークで占め，オープン化傾向が顕著になっている。

こうした情勢の中，CLPAは，CC-Linkのグローバルスタンダード化を目指し今後も更に精力的な活動を展開していく。



ネットワーク階層におけるCC-Linkの位置付けとパートナー製品群

FAシステムの最下位層を支えるオープンフィールドネットワークであるCC-Link（デバイスレベル）とCC-Link/LT（センサレベル）には，CLPAパートナー企業から467機種（2003年1月現在）の接続製品が開発され販売されている。CC-Link及びCC-Link/LTは，三菱電機で開発された後，第三者機関であるCC-Link協会（CLPA）において，その仕様書のリリース及びオープン化とグローバル化のための運営・普及活動が展開されている。

*CC-Link協会 事務局長